慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ファッションデザインとウェアラブルテクノロジーの統合的研究 : 型紙設計を中心に
Sub Title	Integrated study on fashion design and wearable technology : looking at generative pattern cutting
Author	水野, 大二郎(Mizuno, Daijiro)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究の目的は、ウェアラブルコンピュータ（ウェアラブルテクノロジー）における「ウェアラブル」の意味がユビキタス電子機器としてのみならず「みにつける」ものであることを前提に、ファッションデザインの既往研究からも検討することで、人間が着用することの文化、社会、技術に及ぶ包括的、統合的な設計要因を明らかにすることである。 本研究の成果を以下に述べる： ・津田大介とのシンポジウム開催（六本木アカデミーヒルズ）とその内容のデジタル書籍化 ＝デジタル、バイオ、サステナブルXファッションなどを歴史的に俯瞰しつつ、新たな人間像の輪郭を衣服を介して議論した。その成果は津田大介によってデジタル書籍化されている。 ・Global Fashion Conference 2018 (London)における３本の口頭発表 ＝３本の発表はDIYバイオとデジタルファブリケーションがもたらす新たな型紙設計開発、ウェアラブルテクノロジーとファッションの融合がもたらす新たな統合的設計領域、アルゴリズムを介した型紙設計開発を通した環境維持可能性の検討、の３つである。 ・研究会学生らによるWired Creative Hack Award2018入選 ＝本研究内容を応用して開発された設計方法に基づく成果物を同アワードに応募、入選した。 ・Keio SFC Open Research Forum 2018での展示発表 This research looks at the intersection of wearable technology in the broad context (including biotechnology and computational pattern cutting) to analyse the socio-technical issues that should be considered throughout the design process. As a result, I had three oral presentations on the research projects undertaken within this funding at Global Fashion Conferenec 2018 in London.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180196

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019 年 1 月 28 日

2018 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	環境情報学部	職名	准教授	補助額	500 （特B）千円
	氏名	水野 大二郎	氏名（英語）	Daijiro Mizuno		

研究課題（日本語）

ファッションデザインとウェアラブルテクノロジーの統合的研究ー型紙設計を中心に

研究課題（英訳）

Integrated Study on Fashion Design and Wearable Technology
-Looking at Generative Pattern Cutting

１．研究成果実績の概要

本研究の目的は、ウェアラブルコンピュータ（ウェアラブルテクノロジー）における「ウェアラブル」の意味がユビキタス電子機器としてのみならず「みにつける」ものであることを前提に、ファッションデザインの既往研究からも検討することで、人間が着用することの文化、社会、技術に及ぶ包括的、統合的な設計要因を明らかにすることである。

本研究の成果を以下に述べる:

・津田大介とのシンポジウム開催（六本木アカデミーヒルズ）とその内容のデジタル書籍化
＝デジタル、バイオ、サステナブル X ファッションなどを歴史的に俯瞰しつつ、新たな人間像の輪郭を衣服を介して議論した。その成果は津田大介によってデジタル書籍化されている。

・Global Fashion Conference 2018 (London)における3本の口頭発表
＝3本の発表は DIY バイオとデジタルファブリケーションがもたらす新たな型紙設計開発、ウェアラブルテクノロジーとファッションの融合がもたらす新たな統合的設計領域、アルゴリズムを介した型紙設計開発を通した環境維持可能性の検討、の3つである。

・研究会学生らによる Wired Creative Hack Award　2018 入選
＝本研究内容を応用して開発された設計方法に基づく成果物を同アワードに応募、入選した。

・Keio SFC Open Research Forum 2018 での展示発表

２．研究成果実績の概要（英訳）

This research looks at the intersection of wearable technology in the broad context (including biotechnology and computational pattern cutting) to analyse the socio-technical issues that should be considered throughout the design process.

As a result, I had three oral presentations on the research projects undertaken within this funding at Global Fashion Conferenec 2018 in London.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）
Daijiro Mizuno	Speculative, Fashionable, Wearable – Engaging Fashion Design with Wearable Technology for the sustainable future	Global Fashion Conference	2018 年 11 月